



リハビリテーション科

言語聴覚療法のご紹介

言語聴覚療法とは主に脳卒中後の後遺症である失語症、構音障害、高次脳機能障害、摂食・嚥下障害に対して行うリハビリのことを言います。

失語症に対する治療

失語症とはいったん獲得された言語機能が障害され話す、聴く、書く、読むの全てのモダリティが失われたものです。

リハビリでは絵カードやプリント等を用いて1人1人にあつた治療を実施しております。



摂食嚥下（せつしょくえんげ）障害とは



摂食嚥下障害とは、口から食べる機能の障害のことです。私たちは普段、意識はしていませんが、食べ物を目やにおいで認識し、口まで運び、口の中に入れて噛み、ゴクンと飲み込むことで、食物や液体を摂取しています。

この一連の働きが機能しなくなったことを摂食嚥下障害と言います。

言語聴覚療法分野の取り組み



【人数】7人

【研修について】

勉強会・症例検討：月1回（2か月に1回白庭病院との合同勉強会）

*週に1度、スーパーバイザー（以後SV）にきていただき指導を仰いでいます。

SV 来院時は治療に実際に介入していただき、ビデオにより治療場面を撮影し、業務後にビデオを見ながらフィードバックをもらい、治療に活かしています。また触診や評価時の観察ポイントなど実技の講義もしていただいています。

【検査道具】SLTA、重度失語症検査、SALA、CADL、VPTA 等